

千葉県環境保全センター青年部会

水循環の仕組み学ぼう

豊住小でこども環境教室

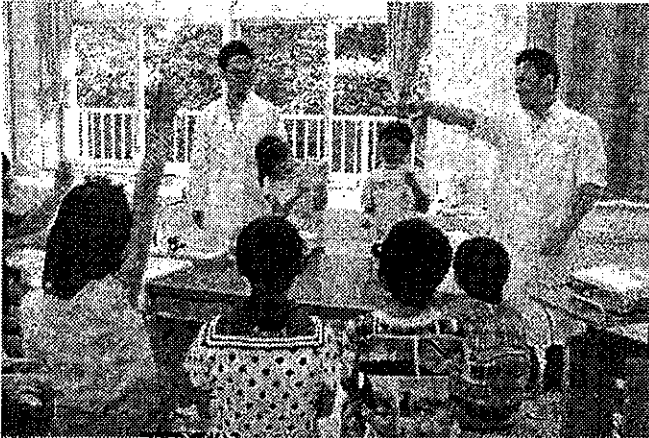
(一社)千葉県環境保全センター青年部会は6月28日、成田市立豊住小学校理科室で、同校4年生10人を対象とした「こども環境教室」を開いた。講師の加納敏充氏(千葉北部環境整備(株))は水を循環させる仕組みとして下水処理場、合併処理浄化槽、浄水場を紹介。児童へのお願いとして「みんなが使った水は、飲み水として戻ってくる。なるべく汚れた水を出さないように協力してほしい」と述べた。

節水を学ぶための実験コーナーでは、岡田智彦・青年部会長(㈱日本環境分析センター)と石井剣氏(富士興運(株))が講師を務めた。汚れに見立てたみそを皿に塗り、そのまま水で洗い流した場合と、みそを拭き取ってから洗った場合の違いを検証。児童からは「拭き取ってから洗ったほうが水の量が少なくて済む」などの声が上がった。

こども環境教室は、浄化槽をはじめとする生活排水処理施設の役割を通して、千葉県の水のすばらしさや水の大切さに関心を持ってもらうことが目的。豊住小のほか、6月11日に四街道市立八木原小学校、同月27日には君津市立小櫃小学校で開催した。



講師を務めた加納氏

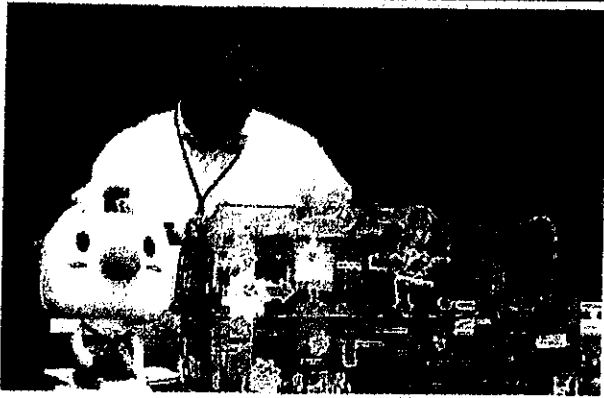


実験コーナーで節水を学習

会 保 環 保
部 年 部 青

実験で節水効果確認 成田・豊住小の環境教室

県内の浄化槽維持管理会社215社が参加する「環境保全センター」(石井栄理事長)の青年部会(岡田智彦部会長)は6月28日、成田市北羽馬の豊住小学校(石川智彦校長)で、4年生の児童10人を対象に出前授業「子ども環境教室」を実施した。クイズや実験を織り交ぜ、参加型の授業とするなど、興味や好奇心を高める工夫を随所に凝らしながら、節水や自然環境を守る大切さを伝えた。



約60人で組織する青年部会から13人が参加。内部の様子がわかる浄化槽のミニチュア模型を事前
に持ち込むなど、協力して準備にあたった。
授業は、川や海に棲む

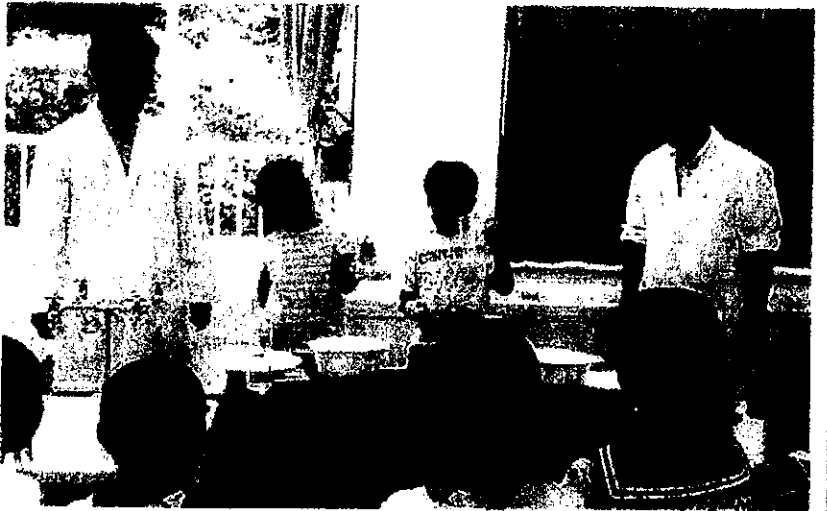
生き物の名前当てクイズで開始。児童らにも身近な生き物の棲家となつて
いる水辺の情景がイメージできたところで、微生物の力を借りて汚水を処理する仕組みを動画で解

講師をつとめた加納氏
川や海に流
してこのこ
とを説明し
た。
2つ目の
クイズは、

「トイレや台所、風呂、洗濯のうち、一番汚水を多く出しているのはどこか」。トイレと予想した児童が多いなか、台所が一番多いことを伝えると、児童らは一様に驚いた様子。

さらに、地球全体の水を風呂の浴槽1杯と仮定すると、人が飲む水の量はスプーン1杯に過ぎないこと、汚染水に魚が住めるようにするために、大きじ1杯のしゅうゆには浴槽1・5杯分、てんぷら油500mlには330杯分の水が必要になることを伝え、家庭から出る生活排水を減らすことの重要性を理解してもらった。

続く実験コーナーでは、岡田部会長(日本環境分析センター)と石井剣氏(富士興運)が講師となり、児童と一緒に節水実験に挑戦。汚れを拭き取



児童と実験する石井氏(左端)と岡田部会長(右端)

った後に水洗する場合と、そのまま水洗する場合では、洗浄に必要な水の量も時間も異なること、簡単な工夫で節水できることを自分たちの目で確かめた。

最後に、「トイレの水は何度も流さない」「食べ物ではできるだけ残さない」など環境を守る習慣を呼びかけ、同センターのマスコットキャラクター「ちーじょ」がプリントされた特製規定などをプレゼント、活気あふれる楽しい授業を締めくくった。